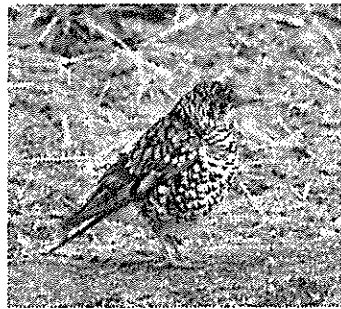


あとむ

姫路科学館友の会会報 第178号(2022年05月)(友の会事務局発行)

ぬえ 「鵒」

「暗きより 暗き道にぞ 入りぬべき はるかに照らせ 山の端の月」作者の和泉式部が、書写山で天台宗円教寺を開いた性空上人に向けて詠んだものとか。



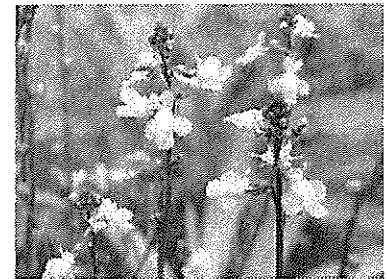
この歌は、うつほ舟に乗った鵒の霊の、最後の歌として世阿弥の能にも引用されています。鵒が旅の僧に救いを求め、「月日も見えず暗きより、暗き道にぞ入りにける。はるかに照らせ山の端の、はるかに照らせ、山の端の月と共に…」と詠いつつ、闇の中に姿を消します。その夜の海を月が照らしている、というお話だそうです。

鵒:トラツグミ(写真)の異称。ツグミよりやや大形、一面に三日月形の黒斑がある。夜に「ひいい、ひよお」と寂しい声で鳴く。広辞苑より

(友の会会長 上田倫範)

花の歳時記 「マツバウンラン」(オオバコ科)

線路際の石の多い路傍や荒地、芝生などに自生している越年性の帰化植物です。1941年に京都市伏見区で採集された記録が最初で、現在は、東北地方南部の本州から九州にかけて見られます。4月半ばから6月初めにかけて、薄紫の花を穂状に咲かせます。



海岸(海辺)に生育するランに似たウンランの仲間、線形の葉がマツの葉に似ているところからこの名がつけました。

葉の成分には抗出血性があり、葉を揉んで止血に使われます。

(友の会理事 古角孝之)

目次

- P1 会長挨拶(友の会会長 上田倫範)、花の歳時記(友の会理事 古角孝之)
- P2 地球と生命の歴史(姫路科学館 学芸・普及担当課長補佐 徳重哲哉)
- P3 気になるムシ(環境科学大阪株式会社 森正人)
- P4 ヤマガラ通信(姫路科学館専門員・西播愛鳥会 森田俊司)
- P5 「科学の足あと」シリーズ(元姫路科学館 吉岡克己)
- P6 今日から電波天文学!(北九州市立児童文化科学館 前山大地)
ほしぞら教室(京都産業大学神山天文台 本岡慧子)
- P7 北海道からのお便り(札幌市青少年科学館 学芸課天文係 福澄孝博)
- P8 科学のタネ(姫路科学館 学芸・普及担当 松本万尋)
館長の科学館だより(友の会常任理事 姫路科学館館長 中川吉郎)
姫路科学館友の会の情報